

当事者のライフステージに合わせた
『手話言語』にかかる取組みについて、
子ども時代(乳幼児期・児童期)に考慮すべきこと

河崎佳子

1. 「ことばの発達」に関する 心理学的な捉え方の変化

語彙数は？ 何語文か？ の重視



文脈における理解
場面共有のなかで生まれる意味
関係性の中で育つ象徴機能としての「ことば」

2. 言語学の視点からみた手話理解が、 手話獲得の考え方に与えた影響

手話は独自の文法構造をもつ、独立した言語である。

手話環境(ネイティブサイナーとの交流)が保障される
ことによって、手話は自然に獲得される(母語となる)。

3. ネイティブサイナー と 手話を第二言語とするサイナー ～それぞれの手話の尊重～

◆ネイティブサイナー

手話で話すときには、頭の中に日本語がない。
手話を手話として、そのまま理解する。

◆手話を第二言語とする(対応手話をする時のバイリンガル)サイナー
程度の違いはあるが、頭の中に日本語を伴って、手話をする。
程度の違いはあるが、手話を読み取って、日本語で理解する

4. 手話言語にかかる

取り組みとしての

「乳児期～幼児期初期 0-3歳頃」の支援

「手話を獲得する」「手話で育つ」環境を保障する

* 生活言語の保障

乳幼児期の 対 親支援

◎情報提供 :

手話の紹介 手話を使う人々の紹介

◎「手話を学ぶ」機会の提供 :

手話講座 手話学習会 家庭訪問支援

◎きこえない乳幼児と「手話のあるコミュニケーションを体験する」機会の提供

乳幼児期の 対子ども支援

◎「手話でやりとりする」体験の保障

→ 愛着形成 認知発達 人格形成

◎「手話を獲得する」支援

=ネイティブサイナーになる機会を保障する

◎「手話で成長する」機会の提供

=ネイティブサイナーとかかわる環境を保障する

乳幼児期の支援はどこで？

◎ろう学校が取り組む場合は、
「乳幼児教育相談？」→「幼稚部」

◎その他の組織が取り組む場合は、
「早期～就学前支援企画」

cf. 京都市聴言センター「にじっこ」

聴覚に障害のある赤ちゃん子ども・ご家族のつどいの場 「にじっこ」

「聞こえのこと」「子育てのこと」「ことばのこと」「ちょっと聞きたいこと」「こんなときいていいのかな・・・」

そんな「つどいの場」が始まりました。

「聴覚に障害のある赤ちゃん子ども・ご家族のつどいの場」が京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」の部屋でスタートしました。

隔週土曜日・木曜日に聴覚に障害のある赤ちゃんとそのご家族を対象に、手話を使った「絵本の読み聞かせ」や「手遊び」「交流会」「勉強会」等を行います。

乳幼児から学齢期のお子さんまで、年齢・地域・きこえの程度は問いません。ぜひ一度、のぞいてみてください。

お待ちしております！

第1・第3木曜日 11:00～12:00

第2・第4土曜日 11:00～12:00

京都市聴覚言語障害センターHPより



「にじっこ」とは？

「にじっこ」が大切にしていることは？

◎聴覚に障害のある赤ちゃんと子ども・ご家族が、手話とろう者に
出会える場

◎遊び・交流・学習をとおして、きこえない子どもたちの成長について
体験を分かち合い、共に考える場

◇親が年を重ねた時、親の老後について、きこえの異なるきょうだい
が対等に話し合えるように育てる。

◇やがて大人になるきこえない子が、次世代を育てることのできる
きこえない存在になれるように育てる。

5. 「幼児期中期・後期 3－6歳頃」の支援

◎子どもが「手話を獲得する」「手話で学ぶ」「手話をとおして感じ、考える」環境を保障する。

◎豊かな手話環境の中で、さまざまな活動と対人関係をとおして、「生活言語(一次的事物ば)」としての手話力を発達させる。

遊び・学習・しつけ・絵本の読み伝え・話し合い...

- 手話を見て理解する(≡ 日本語を聞く)
- 手話で伝える(≡ 日本語を話す)
- 手話で考える(≡ 日本語で考える)

対等性、同時性、相互性、効率性が、
その子にとって最善に保障される言語で、
養育を開始し、教育へとつなげていく。
「全部わかる」体験を知って育つ。

手話言語条例はどのような役割を果たせるか。

出発点は、早期支援。

6. 「学童期前期 小学低～中学年」の支援

- ・手話で手話を学ぶ

語彙力 より高度な表現 より高度な組み立て(文章化)

読み取る(≡聞く) 表す(≡話す)

→ 手話作文(≡口頭作文) = 「二次的事ことば」としての手話

- ・手話で教科を学ぶ

- ・手話で知識を広げ、議論し、対人関係を豊かにする

- ・手話で書記日本語を学ぶ

7. 「学童期後期 中～高学年」の支援

- 手話で手話を学ぶ

「二次的事物」としての手話を洗練させる

- 手話で教科を学ぶ

- 手話でより高度な書記日本語を学ぶ
(≡バイリンガルになる)

岡本夏木氏 「ことばと発達」
岩波書店 1985

ことばの誕生期 ～話し始め～

一次的ことば期 ～ことばの生活化～

二次的ことば期 ～ことばのことば化～

一次的ことば

特定の親しい人との対面対話場面で、その場と具体的に関連した事象をテーマに話し合っゆくことば

- ① 現実的な生活場面のなかで、具体的状況と関連して用いられる。
場の状況的文脈や行動文脈に支えられてその意味を相手に伝えることができる。
- ② コミュニケーションの対象が「特定の親しい人」
- ③ 一対一の会話(対話)

親-子 保育士-子 先生-子

二次的ことば

- ① ある事象や事物について、現実の場面を離れたところでことばで表現する。ことばの文脈そのものによつて伝達（表現）。
- ② コミュニケーションの対象が未知の不特定多数者
- ③ 自分の側からの一方的伝達行為として表現
- ④ 「音声ことば」から「書きことば」へ

授業 発表 講義 講演 演説